

集中講義@東大理学部

科学プレゼンテーション・ライティング演習

1限目：ガイダンス

- 名前は「学籍番号 First LAST」で表示して下さい
ex: [XXXXXXXX Naohiro TAKANASHI]
- カメラのon/offはどちらでも構いません
- マイクは使えるようにしておいて下さい
- 講義中はマイクをミュートにして下さい
- 発言する際は「手を挙げる」ボタンを使って下さい
- 必要に応じてチャット機能も使って下さい

講義資料は以下に公開予定

<https://www.tenpla.net/takanashi/tokyo24/>
(ID: *tokyo24* PW: *yayoi*)



午後のワークショップでは絵を描きます

デジタルな手段で描いてもまったく構いませんが、
アナログな手段で描かれる方は

紙と筆記具を用意しておいて下さい
(裏紙で十分です)

担当教員

高梨 直紘

naohiro.takanashi@emp.u-tokyo.ac.jp

小阪 淳

kosaka@jun.com

片桐 暁

akira-k@fk9.so-net.ne.jp

3人宛 → tkk@tenpla.net

受講の心構え

なにごとからも自由になって思索する時間

自由に考えることはとても難しい

積極的に自身を捉えている枠を外してみる

ウォーミングアップ

ひとり1分 + 質問1分

「夜、寝る前になにをしていますか？」

1分で説明、その後は他の皆さんが
順番に短い質問をしていきましょう

(4人1グループ)

自己紹介をしよう

ひとり2分程度

所属（学部、年齢、性別、出身）、
身分やカテゴリーを一切使わずに、
自分がどういう人間なのか説明してください

たとえば、性格、趣味、好きなもの、
嫌いなもの、癖、こだわり、
これまでにあったこと、これからしたいことなど、
個人的なことを話してください

（梶谷真司先生のメソッド）

はじめに

「良い文章を書けるようになりたい」

👉 たくさん良い文章を読もう

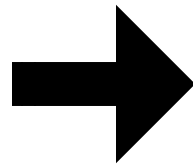
「すてきなプレゼンができるようになりたい」

👉 たくさんすてきなプレゼンを聞こう

講義の目的

人々と科学をつなぐコミュニケーションの形を
デザインするための視座や考え方を知ること

理論



実践

方法論を持っていれば、何事にも応用可能

講義の目標

①

ばらばらにする

②

パーツ毎に吟味する

③

組み立て方を学ぶ

④

自分で組み立てる

評点の付け方

最終発表 (70点) + 出席点 (30点)

(途中で行う課題は評価の対象外)

講義の流れ

1日目

2日目

3日目

ガイダンス	課題への講評	最終発表会
思考の展開方法 (1) 絵に描く	思考の展開方法 (2) 言葉に書く	最終発表会
思考の展開方法 (1) 絵に描く	思考の展開方法 (2) 言葉に書く	最終発表会

講義を受けるにあたって

- ✓ 「正解」を学ぶ場ではない
 - ・ 一般的な方法論はあるが、金科玉条ではない
 - ・ 自分の強みを活かした方法論をそれぞれに作るべし
 - ・ 講義はそのための素材を集めて、組み立ててみる機会
- ✓ とにかく手を動かしてみよう
 - ・ 理屈が分かっているけど、自転車は乗りこなせない
 - ・ 時間の許す限り、何回も描き/書き直してみる
 - ・ 講義後も、機会を見つけて精進に努める

最終発表課題

講師含め受講生の皆さんを相手に
自身の研究の「●●」について
プレゼンをして下さい

持ち時間は5分、パワーポでなくてもOK

評価ポイント

自身の信念をいかに確認したか
(自分の深掘り)

自身の専門を人々との関わりの中で定義できたか
(他者への眼差し)

信念を理解・共感してもらえたか
(伝える技術)

信念を語ることの意義

- 科学はひとつの客観的世界を取り扱う
- 私たちはそれぞれの主観的世界に生きている
- 両者は世界の開け方がまったく違う ex. 安全・安心
- 科学に絡む対話の本質は、両者をつなぐこと
- あなたの中ではどうつながっているのか？

自分事として科学を語ってみる